

『みんなの笑顔のために』

運動会(5/28)に向けての練習がはじまっています。



運動会等の時期になると、みなさんがよく知っている「ウサギとカメ」の童話を思い出します。どうしてウサギはカメに負けたのでしょうか。次のような見方があります。

端的に言えば、ウサギとカメでは「**見ているところが違った**」と云うことです。

ウサギは何を見ていたのか。ウサギはカメを見ていました。ウサギの目的は、**カメに勝つこと**だったのです。だから、ノロノロとやってこないカメに、油断をしてしまったのです。

対するカメは何を見ていたのか。ゴールを見ていました。カメの目的は、**ゴールにたどり着くこと**だったのです。

カメがウサギを見ていたら、昼寝をしているウサギを見て、自分も休んでしまったかもしれません。ところが、カメはそうしなかった。ゴールを見ていたからです。

運動会の目的も、相手に勝つことだけではないと考えています。

運動会当日、児童のみなさんがそれぞれのゴールを目指して、がんばってくれることを期待しています。



「相手の身になること」

新型コロナウイルスによる感染症は、世界中で感染の拡大が続いている状況です。この感染症は、“3つの顔”を持っており、これらが“負のスパイラル”としてつながることで、更なる感染の拡大につながっていると言われています。この負のスパイラルを断ち切ることが大切です。第1の感染症「**病気**」を防ぐために、私たちは「手洗い」「咳エチケット」「人混みを避ける」など行動してきました。さらに、第2・第3の感染症を防ぐことも大切です。しかし、これまでも感染者や医師や看護師などの医療従事者に対しても、偏見や差別の目が向けられました。医師や看護師を親にもつ子どもが、保育園や幼稚園への登園を拒否されたり、友だちから仲間はずれにされたりしたというのです。感染者を非難する社会をこのまま放っておくとどうなってしまうのでしょうか。

「感染者」にならないために、病院に行ったり、検査を受けたりするのを避ける人が増えて、結果として感染を拡げることにつながってしまいます。

しかし、素敵なことも起きています。ある本に、次のように紹介してありました。

ある女性タレントが濃厚接触者となり、2週間の自宅待機となりました。感染は確定していませんでしたが、その人の住んでいるマンションではエレベーターや玄関などが消毒されたといいます。きっと、そのタレントは他人に迷惑をかけてしまったと肩身の狭い思いをしたことでしょう。一步も外へ出ず、2週間の自主隔離期間が終わりました。初めて外へ出て、ポストを見ると、小さな花束が入っているのに気がきました。『おめでとうございます。自宅待機の2週間、何もなくて良かったです』と手紙も添えてあったそうです。タレントの女性は、感激で涙があふれて止まらなかったと言います。

では、花束を贈る人と、感染者をバッシングする人とは、いったい何が違うのか。ただ一つ違いがあるとすれば、「**相手の身になることができたかどうか**」だと思います。

【参考：「相手の身になる練習」鎌田實（小学館）、日本赤十字社ホームページ】

